

道徳科校内研修ノート

～よい授業をつくりたい～

令和3年3月

東京都教職員研修センター

目 次

はじめに	1
活用の手引き	2
研修 1 全ての教師が一丸となって！ 全体計画の活用	4
研修 2 つなげて育てる！ 全体計画（別葉）の活用	6
研修 3 一味違う！ 今年の 年間指導計画	8
研修 4 当たり前だけど大事！ 道徳性が育つ 学級経営	10
研修 5 学習指導案の作成 に願いを込めて！	12
研修 6 ブレない！ブレさせない！ ねらいの設定	14
研修 7 教材との出会い を大切にしよう！	16
研修 8 児童・生徒が考えたくなる！ 発問の工夫	18
研修 9 みんなの考えが聞きたくなる！ 話合いの工夫	20
研修 10 なぜ書くの？ 書く活動の工夫	22
研修 11 自分事として考える！ 役割演技等の工夫	24
研修 12 なるほどよく分かる！ 板書の工夫	26
研修 13 学びを振り返り、生き方につなぐ！ 終末の工夫	28
研修 14 道徳科における評価	30
研修 15 日々の 道徳教育における評価	32
研修 16 道徳教育を振り返ろう！ 次年度計画 に向けて	34
研修 17 協力し合える関係づくりを！ 家庭・地域との連携	36
道徳科 よい授業をつくりたい 先生方への期待	38

はじめに

平成 27 年の学校教育法施行規則の一部改正により、道徳教育の要として行われてきた「道徳の時間」は「特別の教科 道徳」として位置付けられました。東京都教職員研修センターでは「特別の教科 道徳」への円滑な移行に向けた学校の取組を支援するため、平成 27 年度の教育課題研究として「『特別の教科 道徳』の趣旨を踏まえた指導と評価の在り方」の研究に取り組み、その成果を「特別の教科 道徳 指導読本」として冊子にまとめて、平成 28 年 3 月に全ての小・中学校及び特別支援学校等に配布しました。

その後、新学習指導要領の全面実施を前に特に課題意識が高かった「道徳科における評価」を中心に、平成 29 年度の教育課題研究として「『特別の教科 道徳』における評価の在り方—指導方法の改善・充実に向けた取組を通して—」の研究に取り組み、その成果を「特別の教科 道徳 指導読本Ⅱ 道徳科 指導と評価のガイドブック」として冊子にまとめ、平成 30 年 3 月に全ての小・中学校及び特別支援学校等に配布しました。

現在、小学校では現行学習指導要領の全面実施、本年 4 月からは中学校でも全面実施となります。今般の学習指導要領では、特に外国語教育、道徳教育、プログラミング教育について大きな改訂がなされました。道徳教育については、道徳科の授業改善を順調に推進している学校がある一方で、「道徳科は、道徳の時間から本質的には継続されている」という意識や、教科書が全児童・生徒に配布されているために「教科書の年間指導計画に即して実施していくべき」という意識からか、道徳科の特質を踏まえた授業の基本的な事項について、改善が十分に進んでいない学校があることも事実です。

そこで、都内各小・中・特別支援学校等における道徳科の授業改善を一層支援するため、令和 2 年度、東京都教職員研修センターでは、教科等部会の「道徳部会」を中心に、道徳教育を専門とする所員で「道徳科指導資料作成委員会」を組織し、道徳科に初めて取り組む新規採用の先生から、多くの実践を重ねて実績のある先生方まで、広く基礎・基本を学び合うことができる指導資料の作成に向けて取り組んでまいりました。作成にあたり、教育庁指導部の統括指導主事・指導主事に加えて、各区市教育委員会に在籍する統括指導主事・指導主事にも原稿を執筆していただきました。

本書「特別の教科 道徳 指導読本Ⅲ 道徳科 校内研修ノート ~よい授業をつくりたい~」は、「全体計画の作成」、「ねらいの設定」、「発問の構成」など、道徳科の授業づくりで大切な事項を 17 の研修項目に整理し、見開きでまとめたものです。左ページには各研修項目の Q & A とワンポイントアドバイスを掲載しました。右ページには各研修項目について 15 分程度で演習や協議ができるよう、書き込み式の資料といたしました。PDF データと共に加工可能なデータも併せて配信いたします。

区市町村教育委員会や各小学校、中学校及び特別支援学校におかれましては、道徳科の研究授業の前後や道徳授業地区公開講座実施前の OJT 等の校内研修などで、学校の実態に即して本書を活用していただき、児童・生徒が内面的資質としての道徳性を主体的に養う道徳科の授業改善が一層推進されることを祈念申し上げます。

令和 3 年 3 月

東京都教職員研修センター所長

宇田 剛

「道徳科 校内研修ノート」の構成と活用について

この「道徳科 校内研修ノート」は、講師を招聘しないで行う校内研修や15分から20分程度の短時間のOJTの場でも先生方の協議によって道徳科の指導の在り方を学ぶことができるよう構成しています。

道徳教育推進教師や道徳科主任の先生が中心となって、先生方の悩みなどを引き出し、互いの経験を生かして助言し合うなど、様々な活用が考えられます。



<先生方からの質問>

Q

若手の先生方など
道徳科の指導の経験が浅い
先生方からの質問を想定しています。

<ここがポイント！>

A

質問に対して、経験が豊富な先生が答える形式でまとめてあります。これを参考に、演習に向けて先生同士、課題を共有してください。

※ ピンク色のボックス欄には、質問に答え、基礎・基本として押さえておく内容を整理していますので参考にしてください。

ワンポイント
アドバイス!

<助言者からのアドバイス>

校内の教職員全体で考えてほしい事項を取り上げています。

この内容を参考として全員で協議したい内容を整理してください。

<参考資料>

参考資料を準備して研修に臨んでください。

研修1 全体計画は活用できていますか？ 学校の道徳教育の柱を立てましょう！

全ての教師が一丸となって！ 全体計画の活用

Q



道徳教育の全体計画って、何のために作成しているのだろう？



A

道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて取り組むものです。したがって、道徳教育の全体計画には、学校の教育目標や児童・生徒の実態、道徳教育の重点目標、道徳科の指導の方針、道徳科の内容との関連を踏まえた各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容や時期、家庭や地域との連携の方法等を示す必要があります。

つまり、学校の教育活動全体を通じて、どのように道徳教育に取り組んでいかを全ての教職員が理解し、実践するための指針となるのが、道徳教育の全体計画です。その全体計画に基づき、学校が道徳教育に一貫性をもたせ、児童・生徒の道徳性を着実に育んでいきましょう。

ワンポイント
アドバイス!

全ての教師がそれぞれの立場（職層、担当学年、担当教科など）から、「いつ」、「何を」、「どのようにするのか」などを明確に意識することが大切です。



◆ 学校の道徳教育の重点目標を確認しましょう

道徳教育の重点目標は、各学校が道徳教育を通じてどのような児童・生徒を育てるのかを示したものです。自校の重点目標を全ての教職員が理解するとともに、目標が達成された児童・生徒の姿の具体的なイメージ（どのような人に育ててほしいか）を確認しましょう。また、重点目標を保護者や地域の方にも伝え、学校・家庭・地域が一体となって児童・生徒の心を育む協力体制を整えましょう。

◆ 重点目標の実現に向けた具体的な取組を考え、共有しましょう

育ってほしい児童・生徒の姿を明確にした上で、その実現のための手立てを考え、全ての教職員が共有しましょう。各学年段階で何をどこまで身に付けるのか、そのために各教科等や学校行事などでいつ、どのような指導を行うのか、といった具体的な取組を考え、重点目標の達成に向けた道筋を全ての教職員で共有しましょう。

◆ 道徳教育における各教師の役割を理解し、協働しましょう

管理職、道徳教育推進教師、学年主任など、それぞれの立場によって道徳教育の推進における役割は異なります。また、教科や学校行事等の特性に応じて、そこで取り組まれる道徳教育の内容も異なります。全ての教職員がそれぞれの立場で、「いつ」「何を」「どのようにするのか」を考えるとともに、互いの役割を理解して協働していくことが大切です。

道徳教育が学校の教育活動全体を通じて取り組むものであるということは、道徳教育に関わらない教師はいないということです。全ての教職員が協力し合い、学校全体が一丸となって児童・生徒の道徳性を育んでいきましょう。

参考

- ・小学校学習指導要領 第1章 総則 第6 道徳教育に関する配慮事項 P26-27
- ・中学校学習指導要領 第1章 総則 第6 道徳教育に関する配慮事項 P28
- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P72-77
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P70-75
- ・「Do-NAVI vol.1」P9 - 10 「Do-NAVI vol.2」P11 - 12

「道徳科 校内研修ノート」の特徴

- 道徳科の授業づくりで大切な事項を17の研修項目に整理しました。順番は任意です。**どの研修項目からでも始めることができます。**
- 一つの研修項目につき見開き2ページで構成しています。左側には、先生方の疑問に答え、助言する「Q&A」を、右側には、書き込みながら考え、協議して理解を深めるための「演習」を設定しました。

【参考資料について】

- 各ページには参考となる資料を掲載しています。
- 「D o - N A V I」
 - 「指導読本Ⅱ 道徳科 指導と評価のガイドブック」
- その他、各種資料を準備して研修に臨んでください。

1及び2の資料は、東京都教職員研修センターホームページの教職員専用ページからダウンロードできます。

演習シート

—演習—
道徳教育の重点目標を基に、具体的な指導内容や取組について考えましょう。

ステップ1 【個人で考える】

(1) 道徳教育の重点目標を確認しましょう。
<道徳教育の重点目標>

<育ってほしい児童・生徒の具体的な姿>

確認しよう!! 学習指導要領解説特別の教科道徳編 小学校 P26-27 中学校 P24-25 (内容項目の一覧)



ステップ2 【協議する】

(2) 重点目標の実現に向けた具体的な取組を考え、他の先生方と協議しましょう。
<各教科等での具体的な取組>

<総合的な学習の時間での具体的な取組>

<特別活動での具体的な取組>

<その他>

確認しよう!! 学習指導要領解説総則編 第3章 第6節 1(4)各教科等における道徳教育、
3(3)道徳教育の指導内容と児童(生徒)の日常生活

ステップ3 【考えたことを生かす】

(3) 他の先生方と協議して考えたことを記録しておきましょう。
<道徳教育の充実に向けて、自分が担当する校務分掌等で取り組むことを考えましょう。>



道徳教育の目標の実現に向け、全ての教職員が協働して取り組み、
児童・生徒の道徳性を育みましょう！

各研修項目の全てに、「演習シート」を設けています。

★ステップ1

【個人で考える】

まず、個人で書き込みをすることで、自らの考えを整理しましょう。

★ステップ2

【協議する】

参加者同士、グループや全員で互いの考えを共有しましょう。

★ステップ3

【考えたことを生かす】

共有した考えを整理し、学校や学年、学級の実態に応じて、授業改善に生かすにはどうしたらよいかなど、さらに議論を深めましょう。

※ 本書の電子版は、東京都教職員研修センターの教職員専用ページに掲載しています。

演習シートは加工できます。
工夫して御活用ください。

研修1

全体計画は活用できていますか？ 学校の道徳教育の柱を立てましょう！

全ての教師が一丸となって！ 全体計画の活用

Q



道徳教育の全体計画って、何のために作成しているのだろう？



A

道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて取り組むものです。したがって、道徳教育の全体計画には、学校の教育目標や児童・生徒の実態、道徳教育の重点目標、道徳科の指導の方針、道徳科の内容との関連を踏まえた各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容や時期、家庭や地域との連携の方法等を示す必要があります。

つまり、学校の教育活動全体を通じて、どのように道徳教育に取り組んでいくかを全ての教職員が理解し、実践するための指針となるのが、道徳教育の全体計画です。その全体計画に基づき、学校が道徳教育に一貫性をもたせ、児童・生徒の道徳性を着実に育んでいきましょう。

ワンポイント
アドバイス！

全ての教師がそれぞれの立場（職層、担当学年、担当教科など）から、「いつ」、「何を」、「どのようにするのか」などを明確に意識することが大切です。



◆ 学校の道徳教育の重点目標を確認しましょう

道徳教育の重点目標は、各学校が道徳教育を通じてどのような児童・生徒を育てるのかを示したもので、自校の重点目標を全ての教職員が理解するとともに、目標が達成された児童・生徒の姿の具体的なイメージ（どのような人に育ってほしいか）を確認しましょう。また、重点目標を保護者や地域の方にも伝え、学校・家庭・地域が一体となって児童・生徒の心を育む協力体制を整えましょう。

◆ 重点目標の実現に向けた具体的な取組を考え、共有しましょう

育ってほしい児童・生徒の姿を明確にした上で、その実現のための手立てを考え、全ての教職員が共有しましょう。各学年段階で何をどこまで身に付けるのか、そのために各教科等や学校行事などでいつ、どのような指導を行うのか、といった具体的な取組を考え、重点目標の達成に向けた道筋を全ての教職員で共有しましょう。

◆ 道徳教育における各教師の役割を理解し、協働しましょう

管理職、道徳教育推進教師、学年主任など、それぞれの立場によって道徳教育の推進における役割は異なります。また、教科や学校行事等の特性に応じて、そこで取り組まれる道徳教育の内容も異なります。全ての教職員がそれぞれの立場で、「いつ」、「何を」、「どのようにするのか」を考えるとともに、互いの役割を理解して協働していくことが大切です。

道徳教育が学校の教育活動全体を通じて取り組むものであるということは、道徳教育に関わらない教師はいないということです。全ての教職員が協力し合い、学校全体が一丸となって児童・生徒の道徳性を育んでいきましょう。

参考

- ・小学校学習指導要領 第1章 総則 第6 道徳教育に関する配慮事項 P26-27
- ・中学校学習指導要領 第1章 総則 第6 道徳教育に関する配慮事項 P28
- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P72-77
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P70-75
- ・「Do-NAVI vol.1」P9-10 ・「Do-NAVI vol.2」P11-12

演習シート

—演習—

道徳教育の重点目標を基に、具体的な指導内容や取組について考えましょう。

ステップ1 【個人で考える】

(1) 道徳教育の重点目標を確認しましょう。

<道徳教育の重点目標>

<育ってほしい児童・生徒の具体的な姿>

確認しよう!!

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編

小学校 P26-27 中学校 P24-25 (内容項目の一覧)



ステップ2 【協議する】

(2) 重点目標の実現に向けた具体的な取組を考え、他の先生方と協議しましょう。

<各教科等での具体的な取組>

<総合的な学習の時間での具体的な取組>

<特別活動での具体的な取組>

<その他>

確認しよう!!

学習指導要領解説 総則編 第3章 第6節 1(4)各教科等における道徳教育、

3(3)道徳教育の指導内容と児童(生徒)の日常生活

ステップ3 【考えたことを生かす】

(3) 他の先生方と協議して考えたことを記録しておきましょう。

<道徳教育の充実に向けて、自分が担当する校務分掌等で取り組むことを考えましょう。>



**道徳教育の目標の実現に向け、全ての教職員が協働して取り組み、
児童・生徒の道徳性を育みましょう！**

研修2

道徳科の授業が孤立していませんか？他の教育活動と関連させて児童・生徒の心を育てましょう！

つなげて育てる！ 全体計画（別葉）の活用

Q



道徳の授業を行っているけれど、児童・生徒の心を育てることはできているのでしょうか？

A



児童・生徒の心は、道徳科の授業だけではなく、学校の教育活動全体を通じて育っていくものです。道徳科は、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動など学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要としての役割を担っています。具体的には、次の3つの役割があります。

補充の役割…各教科等で行う道徳教育では取り扱う機会が十分でない内容項目についての指導を補う。

深化の役割…日常の体験の中では、道徳的価値の意味や自己とのかかわりなどについてじっくり考え、深めることができにくい場合が多いので、道徳科は考えを一層深化させる役割を担っている。

統合の役割…各教科等で行う道徳教育は、断片的で、偶発的で、表面的で、副次的な特徴をもつ。道徳科にはそれらを統合し、内容項目相互の関連を捉え直したり発展させたりする役割がある。

授業者がこの3つの役割を意識するとともに、カリキュラム・マネジメントの視点を生かして、各教科等との関連付けを図るために、全体計画（別葉）を作成・活用することが有効です。「全体計画（別葉）」は、校内の全ての教師が協力し、組織的に道徳教育に取り組む指針となります。

ワンポイント
アドバイス！

「全体計画（別葉）」を作成・活用して、計画的な取組を積み重ね、着実に道徳性を育みましょう！



学校の様々な教育活動について、道徳教育との関連を考えてみましょう。

（例1）学校行事 運動会（小学校・中学校）

【関連する内容項目】A 希望と勇気、努力（克己）と強い意志 B 礼儀 B 友情、信頼
C 規則の尊重（遵法精神、公徳心）

（例2）理科「こん虫の育ち方」（小学校第3学年）

【関連する内容項目】D 生命の尊さ D 自然愛護

（例3）社会科「私たちと国際社会」（中学校第3学年）

【関連する内容項目】C 公正、公平、社会正義 C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
C 国際理解、国際貢献 D 自然愛護

道徳科で取り扱う内容と、その他の教育活動の関連について整理し、「全体計画（別葉）」に取り入れていきましょう。児童・生徒の実態や各教科等の特性を生かして、校内の全ての教師が関わって取り組むことを明確にしましょう。

作成した「全体計画（別葉）」は、全ての先生方が見やすい場所に掲示し、取り組んで気付いたことをいつでも書き込めるようにすることで、進捗状況の把握や評価・改善に生かすことができます。

参考

- ・小学校学習指導要領 第1章 総則 第6 道徳教育に関する配慮事項 P26-27
- ・中学校学習指導要領 第1章 総則 第6 道徳教育に関する配慮事項 P28
- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P72-77
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P70-75
- ・「Do-NAVI vol.1」P13-14 ・「Do-NAVI vol.2」P1-12

演習シート

—演習—

前のページを参考にして、様々な教育活動と道徳科の内容項目との関連を考えてみましょう。※内容項目については、学習指導要領解説を参照してください。

ステップ1 【個人で考える】<内容項目との関連で学校行事を見つめ直しましょう。>

(1) 自校の年間の行事予定表を基に、それぞれの教育活動で関連付けて指導すべき内容項目を考えましょう。

どの教育活動で？	どの内容項目を指導するか？

ステップ2 【協議する】<重点とする内容項目から教育活動を見直しましょう。>

(2) 学校として重点とする内容項目について、関連付けて指導することが効果的だと考えられる教育活動を挙げましょう。

重点とする内容項目	
関連付ける教育活動	

ステップ3 【考えたことを生かす】



(3) 上記の(1)、(2)のアイデアを共有して、学校全体や学年、学級等で取り組みたいと考えたことを記録しておきましょう。

取り組みたいこと	理由

道徳科の内容項目と教育活動の関連を明確にして、全教職員の協働で、
全体計画（別葉）をよりよいものにしていきましょう！

- 全体計画（別葉）の形式については、学校の実態に応じて活用しやすいものになるよう工夫しましょう。「Do-NAVI vol.2」のP10等を参考にしてください。
- 道徳教育を中心としたカリキュラム・マネジメントの視点を生かして、学校の教育目標や道徳教育の重点目標等と関連付け、よりよい「全体計画（別葉）」をつくりましょう！



研修3

教科書の配列通りの指導計画になっていませんか？年間指導計画は各学校が創意工夫するものです！

一味違う！ 今年の年間指導計画

Q



年間指導計画を作成する上で、どのような工夫の仕方があるのでしょうか？

A



【年間指導計画とは】

年間指導計画は、道徳教育の全体計画に基づき、児童・生徒の発達の段階に即して計画的、発展的に道徳科の授業が行われるように組み立てた指導計画です。

年間指導計画には、主に次の内容を明記します。

【年間指導計画の内容（例）】

- ・各学年の基本方針・指導の時期・内容項目・主題名・ねらい・教材・主題構成の理由
- ・学習指導過程と指導の方法・他の教育活動等における道徳教育との関連 等

※学習指導要領に示されている内容項目は、各学年で全て取り上げます。

※各時間の指導の概要が分かるものにします。

※中心となる学習活動や補助教材も記入すると、より実践的な年間指導計画にすることができます。

年間指導計画は、児童・生徒の実態や学校の重点目標等に基づいて、各学校が創意工夫をして作成するものです。教科書の配列どおりに作成するとは限りません。

ワンポイント
アドバイス！

例えば、主題の設定と配列の工夫、複数時間の関連を図る工夫などがあります。



【年間指導計画に取り入れる工夫の例】

○主題の設定と配列の工夫

- ・主題に関わる道徳教育の状況、それに伴う児童・生徒の実態などを考慮して主題を設定する。
- ・他の教育活動との関連や地域社会の行事、季節的变化などを考慮して主題を配列する。

○重点的な指導の工夫

- ・重点的に指導する内容項目を決め、同じ内容項目を（教材を変えて）複数時間指導する。

○各教科等、体験活動等との関連付けの工夫

- ・集団宿泊活動やボランティア活動などの道徳性を養うための体験活動との関連を考慮する。

○複数時間の関連を図る工夫

- ・一つの主題を2単位時間にわたって指導して学習を充実させる。
- このような工夫を取り入れ、道徳教育の要となる道徳科の授業が、全学年にわたって計画的・発展的に行われるよう年間指導計画を作成しましょう。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P72-77
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P70-75
- ・「Do-NAVI vol. 1」P11-12

演習シート

—演習—

自校の年間指導計画を基に、更なる工夫のアイデアを考えましょう。

ステップ1 【個人で考える】<全学年の年間指導計画の内容を確認しましょう。>

- (1) 各学年の年間指導計画について、今年度の「重点的に指導する内容項目」に関する指導内容をマーカーで塗りましょう。

ステップ2 【協議する】<年間指導計画の工夫を考えましょう。>

- (2) 前のページの「【年間指導計画に取り入れる工夫の例】」を参考として、更なる工夫のアイデアを考えましょう。

確認しよう!!

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 小学校 P74-77 中学校 P72-75
(年間指導計画作成上の創意工夫と留意点)



ステップ3 【考えたことを生かす】<自校の年間指導計画に生かしましょう。>

- (3) 上記の(2)のアイデアを共有して、年間指導計画に取り入れたいと考えたことを記録しておきましょう。



年間指導計画の作成に当たっては、教科書の配列の考えを参考にしながら、児童・生徒の実態や学校の重点目標等に基づいて、創意工夫しましょう！

研修 4

道徳性が育つには良好な人間関係が大切です！

当たり前だけど大事！ 道徳性が育つ学級経営

Q



「道徳性が育つためには学級経営が大切」と言われますが、どういうことですか？

A



児童・生徒の道徳性が豊かに育つためには、その土壤である学級の望ましい雰囲気や学級での生活に必要な秩序（規律）を形成することが大切です。そのような雰囲気や秩序が欠けている学級では、児童・生徒は安心して自己を見つめ、互いに考えを交流し、自己の生き方についての考えを深める学習ができにくくなってしまいます。いくら指導方法を工夫しても、児童・生徒の道徳性の育ちはあまり期待できません。

学級担任が児童・生徒への願いを込めて掲げる学級目標等は、教師の学級経営の指針であると同時に、児童・生徒が居心地のよい学級を自らつくるための指針となるものです。その意味で、学級における指導計画を整備する意義は大きいと言えます。

安心感があり、自由な雰囲気に満ちた学級生活の中では、児童・生徒は互いのよさを認め合い、切磋琢磨しながら、自ら道徳性を豊かに育んでいくことができるのです。

ワンポイント
アドバイス！

望ましい学級のイメージを明確にもつことができていますか？



道徳科の授業で、児童・生徒がねらいとする道徳的価値の理解に基づき、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方や人間としての生き方についての考えを深める学習をします。その学習では、日常の学級での体験と日頃の教師の指導が相まって、大きな相乗効果を生み出します。

＜教師と子供の信頼関係、子供相互の良好な人間関係が実現している学級の例＞

- ① 一人一人が尊重され、人格の自由が保証されている。
- ② 相互理解に努め、失敗や過ちを許し合う寛容な雰囲気がある。
- ③ 個々の役割と責任が明確で、互いに助け合い協力し合う雰囲気がある。
- ④ 公正で公平な平等原理が確立している。
- ⑤ 集団生活の秩序が確立している。

安心、安全の学級の中で児童・生徒の道徳性は豊かに育ちます。そのためにも、信頼関係や良好な人間関係を築くことができるよう学級経営を充実させていきましょう。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 総則編 第3章 教育課程の実施と学習評価 P76-95
- ・中学校学習指導要領解説 総則編 第3章 教育課程の実施と学習評価 P77-94
- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第3章 道徳科の内容 P22-71
第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P72-77
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第3章 道徳科の内容 P19-69
第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P70-75
- ・小学校学習指導要領解説 特別活動編 第1章 特別活動の目標 P11
- ・中学校学習指導要領解説 特別活動編 第1章 特別活動の目標 P11
- ・「Do-NAVI vol.2」P4 P11-12

演習シート

—演習—

道徳教育の視点から、学級経営との関連を見直してみましょう。

ステップ1【個人で考える】

- (1) 学級担任としての願い、学級経営で大切にしていること、学級や児童・生徒のよいところ、伸ばしたいところを書き出してみましょう。

確認しよう!!

- ・学級として重点的に指導している内容項目
- ・学級経営で行っている道徳教育の内容
- ・道徳科の指導計画の位置付け（指導時期、関連）

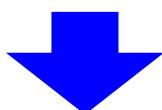
ステップ2【協議する】

- (2) 道徳科の授業に関連付けて指導したい内容項目を確認し、計画を立てましょう。

児童・生徒一人一人のよさや成長の様子を励ますことを想定し、道徳教育と関連させて学級経営を計画しましょう！



ステップ3【考えたことを生かす】



- (3) 協議して気付いたことや新たな発見を記録しておきましょう。

研修5

本時のねらいを達成する授業になっていますか？ 効果的な授業をデザインしましょう！

学習指導案の作成に願いを込めて！

Q



本時のねらいを達成する授業にするためには、どのように授業を計画すればよいのだろう？

A



道徳科の学習指導案は、本時のねらいを達成するために、何を、どのような手順・方法で指導し、さらに本時以外の指導にどうつなげていくかなどについて、学習指導のまとめを構想したものです。

ねらいを達成する授業にするためには、児童・生徒が、その実態等に即して、ねらいとする道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を行うという観点から、教師が願いを込めて授業を構想することが大切です。※括弧内は中学校

ワンポイント
アドバイス！

学習指導案を作成する際は、教師の指導意図（指導観）を明確にして進めることができます。何を育てたくてその指導法を用いるのかなど、指導意図は明確にしましょう。



学習指導案には、一般的には次のような事項を取り上げます。

学習指導案の内容

1 主題名 2 ねらいと教材 3 主題設定の理由 4 学習指導過程 5 その他※

※板書計画や他の教育活動との関連等、授業を円滑に進めるために必要な事柄

また、学習指導案はおおむね以下のような手順で作成します。

学習指導案作成の主な手順

1 ねらいを検討する → 2 指導の重点を明確にする → 3 教材を吟味する → 4 学習指導過程を構想する

学習指導過程は、一般的に、導入、展開、終末の各段階を設定します。

学習指導過程の例

- ア 導入の工夫 → 本時の主題に関わる問題意識をもたせたり教材の内容に興味や関心をもたせたりする
- イ 展開の工夫 → 児童・生徒の実態と教材の特質を踏まえ、道徳的価値の自覚を深める発問などをしながら進める
- ウ 終末の工夫 → 考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする など

学習過程を構想する際には、学級の実態、児童・生徒の発達の段階、指導の内容や意図、教材の特質、他の教育活動との関連などを考慮し、柔軟に考えていくことが大切です。学習指導要領解説には、「多様な教材を生かした指導」、「体験の生かし方を工夫した指導」、「各教科等と関連をもたせた指導」などが例示されています。また、道徳科に生かす指導方法の工夫として、次のものが示されています。

指導方法の工夫の例（各工夫の詳細については、研修7～13を参照）

- | | | |
|-------------|---------------------|------------|
| ア 教材を提示する工夫 | イ 発問の工夫 | ウ 話合いの工夫 |
| エ 書く活動の工夫 | オ 動作化、役割演技等の表現活動の工夫 | カ 板書を生かす工夫 |
| キ 説話の工夫 | | |

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P72～77
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P70～75
- ・特別の教科 道徳 指導読本Ⅱ 道徳科 指導と評価のガイドブック
(平成30年3月 東京都教職員研修センター) P9～16

演習シート

—演習—

共通の教材を使って、「ねらい」と「指導方法の工夫」を考えてみましょう。

ステップ1 【個人で考える】

(1) <教材名と取り上げる内容項目> ※ 共通の教材を決めてください。

(2) <「本時のねらい」を考えてみましょう> ※ 予め対象とする学級を決めておき、児童・生徒の実態を基にねらいを設定してください。簡単なプロフィールがあるとよいでしょう。

確認しよう !!

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第3章 第2節 内容項目の指導の観点
児童・生徒の実態、教材の特長

ステップ2 【協議する】



ねらいを達成するための指導方法の工夫を考えましょう。

学習過程	考えられる工夫	期待する効果
導入		
展開		
終末		

ねらいを達成するために、最も適切な指導方法を選択し、児童・生徒が達成感や充実感を得られるように授業をデザインしましょう！



ステップ3 【考えたことを生かす】

(3) 協議して気付いたことや新たな発見を記録しておきましょう。

“ブレない！ブレさせない！ねらいの設定

Q



具体的で明確なねらいは、どのように設定すればよいのだろう？

A



本時のねらいを設定する際には、まず、教師が本時のねらいとする価値についての自分の考えを明確にもつことが大切です。教師が日頃の道徳教育でどのような考え方をもって指導しているかということに深く関わっているからです。

その上で、児童・生徒に本時で何を学ばせたいのか、本時のねらいとする道徳的価値について、具体的に考えを整理し、具体的なねらいを設定しましょう。

その際には、学習指導要領解説 特別の教科 道徳編に示されている「内容項目の概要」や「指導の要点」を参考として、学年段階ごとに留意すべき事柄や、児童・生徒の実態等に応じて、具体的で明確なねらいを設定しましょう。

ワンポイント
アドバイス！

具体的で明確なねらいを設定するために
教材の主題は何かを考えてみましょう。



道徳授業のねらいは、学習指導要領解説 特別の教科 道徳編に示されている「内容項目の指導の観点」を基に、教材や児童・生徒の実態との関連性を十分に考慮しながら設定しましょう。

参考例

【教材】「雨のバスていりゅう所で」（わたしたちの道徳 小学校3・4年 文部科学省）

【内容項目】C 規則の尊重（「内容項目の指導の観点」を参照してください。）

【教材について】

主人公の「よし子」は、軒下で雨宿りをしている人たちが順番に並んでバスを待っている人たちだと知らなかった。そのため、悪気があって割り込みをしたわけではなかった。だから、「お母さん」の怖い態度が腑に落ちなかった。

本教材の活用により、社会には明文化されていないが社会生活を営む上で必要な「約束やきまり」があることを理解し、それらを尊重する考えを深めることができると考えられる。

【児童の実態について】

本学級の児童は、一人一人が身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりについて考えることが少ない。**きまりの意義やよさについて考えることが必要である。**

【ねらいの設定例】

「約束やきまり」は自分や周りの人々にとってどのような意義があるかを考え、「約束やきまり」を進んで守ろうとする態度を養う。

ねらいの設定に当たっては、**「内容項目」、「教材」、「児童・生徒の実態」との関連を考慮して**、考えさせたいポイントに焦点を絞っておくことが大切です。児童・生徒が教材を通して、自分事としてじっくりと考える姿を思い描いてねらいを設定しましょう。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第3章 道徳科の内容 P22-71

- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第3章 道徳科の内容 P19-69

- ・特別の教科 道徳 指導読本Ⅱ 道徳科 指導と評価のガイドブック

(平成30年3月 東京都教職員研修センター) P9-13

演習シート

—演習—

共通の教材を1つ選択し、学習指導要領解説を参考にして明確な指導の意図をもつたねらいを設定してみましょう。

ステップ1 【個人で考える】

- (1) <取り上げる教材名と内容項目> ※ 共通の教材を決めてください。



確認しよう!!

ねらいとする道徳的価値に関わる児童・生徒の実態を捉えていますか？

ステップ2 【協議する】

- (2) 教材の特長と児童・生徒の実態を整理してみましょう。

※「ねらいとする道徳的価値」を踏まえて考えてみましょう。

教材の特長から	児童・生徒の実態から
<教材の中で考えさせたいポイント>	<児童・生徒に考えさせたいこと>
<期待する効果や児童・生徒の反応>	



ステップ3 【考えたことを生かす】

- (3) 「本時のねらい」を考えてみましょう。

教師自身がブレない！ブレさせない！明確な本時のねらいを設定し、一人一人の児童・生徒が道徳的価値を追究する学びを実現しましょう！



教材との出会いを大切にしよう！

Q



効果的な教材提示には、どのような工夫がありますか？

A



道徳科の授業では、教材提示が重要です。児童・生徒がねらいとする道徳的価値を自分事として捉え、感じ、考えることができるようにするためには、教材の世界に「浸らせる」ことが大切です。

ですから、教材を教師の指名で児童・生徒に読ませるようなことは馴染みません。教師が指導の意図をもって教材を提示することを基本とし、様々な提示の方法の中から最も効果的な方法を選択して行うようにしましょう。

なお、教材提示には、以下のような方法や工夫があります。

- ・紙芝居での提示
- ・影絵、人形やペーパーサートなどを用いた劇のような提示
- ・音声や音楽、効果音などを生かした提示
- ・DVD等の映像を生かした提示
- ・新聞やポスターを活用した提示

なお、学習指導要領解説には、「多くの情報を提示することが必ずしも効果的とは言えず、精選した情報の提示が想像を膨らませ、思考を深める上で効果的な場合もあることに留意する。」と示されています。大がかりな道具を準備すればよいというものではありません。児童・生徒が教材の世界に浸り、心に響くような効果的な教材提示を工夫しましょう。

ワンポイント
アドバイス！

効果的な教材提示ができていますか？
ICT機器も積極的に活用しましょう！



教材提示をする上での留意点を紹介します。

- ・授業前に教材提示の「間」に留意しながら提示の練習を行う。
- ・教材提示前に、児童・生徒に主な登場人物を紹介し、特に注目すべき登場人物を指示する。
- ・教材提示中に、児童・生徒の表情を見る余裕をもって行う。
- ・教材提示後の余韻を大切にし、ゆっくり間を置いてから発問する。

教材に合う音楽や効果音を流す工夫もよく見られますが、ただ流せばよいというものではありません。「音楽や効果音は必要か」、使う場合は「音量は適当か」等、教材理解を図ることを第一に考えて提示方法を工夫することが大切です。

デジタル教科書は、様々な提示の機能が備えられている場合もあるので、効果的かよく判断しながらICT機器も積極的に活用してみましょう。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P83-86
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P82-85

演習シート

—演習—

これまで実践した教材提示で効果的だった事例について、意見交流をしましょう。

ステップ1 【個人で考える】

- (1) これまでに実践した工夫を□にチェックし、効果的だった工夫と提示方法について振り返ってみましょう。
- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 紙芝居での提示 | <input type="checkbox"/> 影絵、人形やペーパーサークなどを用いた劇のような提示 |
| <input type="checkbox"/> 音声や音楽、効果音などを生かした提示 | <input type="checkbox"/> DVD等の映像を生かした提示 |
| <input type="checkbox"/> 新聞やポスターを活用した提示 | <input type="checkbox"/> その他（
） |

効果的だった工夫【

】

提示方法

ステップ2 【協議する】

- (2) 他の先生方の効果的だった工夫と提示方法について話し合ってみましょう。

工夫【
提示方法

】

工夫【
提示方法

】

ステップ3 【考えたことを生かす】

- (3) 上記の(2)のアイデアを共有して、今後の授業に取り入れたいと考えたことを記録しておきましょう。

児童・生徒の実態に応じて、適切な教材提示ができるように工夫しましょう！

参考

- 特別の教科 道徳 指導読本Ⅱ 道徳科 指導と評価のガイドブック
(平成30年3月 東京都教職員研修センター)
第1章 1 求められる道徳科の授業 (4) 道徳科の特質を生かした学習指導 P11 教材の検討
第3章 1 小学校の実践事例と評価 ○実践事例2 授業展開例 (小学校第3学年) P68 教材の活用について

研修 8

児童・生徒が自己の生き方についての考えを深める発問を工夫しましょう！

児童・生徒が考えたくなる！ 発問の工夫

Q



児童・生徒が自己の考え方を自ら深める発問は、どのように設定すればよいでしょうか？

A



道徳科では、一人一人の児童・生徒がねらいとする道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考え方を深める学習をします。その学習を通して、内面的な資質としての道徳性を自ら養っていきます。その考え方を深めるきっかけとなるのが発問です。効果的な発問を構成するためには、指導者はまず、こうした道徳科の特質を、十分に理解しておくことが大切です。※括弧内は中学校

こうした道徳科の特質を踏まえ、指導者は明確な指導の意図をもって授業を構想します。「明確な指導の意図をもつ」とは、教師が「ねらいとする道徳的価値の理解を明確にする」、「ねらいとする道徳的価値に関する児童・生徒の実態を的確に把握する」、「教材の理解を深める」の3点を十分に行った上で、授業を構成するということです。

道徳科の特質と指導者の明確な指導意図を踏まえて、主な発問を考えていきます。

ワンポイント
アドバイス！

教師の明確な指導の意図に基づいて、児童・生徒の思いや願いを引き出すような発問の構成を考えましょう。



本時のねらいを達成する発問を構成するためには、まず、本時のねらいに深く関わる、「中心的な発問」を考えましょう。つまり、児童・生徒に、「教材のどこに着目し」、「何を考えるか」をよく吟味して中心的な発問を設定します。

(例) 【主題名】大切な友だち

【教材名】「ないた赤おに」（文部省資料）

【ねらい】青おにからの手紙を読み、泣き続ける赤おにの気持ちを自分との関わりで考える学習を通して、友だちの大切さにあらためて気付き、友だちを大切にしようとする心情を育てる。

【着目させること】赤おにのことを考えて旅に出た青おにの手紙を読んでいる赤おにの気持ち
(大好きな友だち、信頼、助け合い、感謝、後悔)

【中心的な発問】青おにからの手紙を読んで、赤おにはどんなことを考えたでしょう。

本時の指導で中心的に扱う（教材の）登場人物に着目し、教材分析を行います。その分析を基に、本時のねらいに迫る中心的な発問を設定します。こうすることで的確な発問ができます。

中心的な発問が決まったら、その発問を生かすための前後の発問を一つ、二つ考え、発問を構成します。

そして、中心的な発問で深めた道徳的価値の理解に基づき、自己を見つめ、自己の生き方についての考え方を深める学習課題を設定します。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P83-86
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P82-85
- ・特別の教科 道徳 指導読本Ⅱ 道徳科 指導と評価のガイドブック
(平成30年3月 東京都教職員研修センター) P9-13

演習シート

—演習—

ねらいに迫り、児童・生徒の思いや願いを引き出す中心となる発問を考えてみましょう。

<教材名>
<主題名>
<本時のねらい>

ステップ1 【個人で考える】

<児童・生徒に着目させたい場面>

<着目させたい理由>

<中心となる発問>

<予想される児童・生徒の反応>

ステップ2 【協議する】

<中心となる発問>

<予想される児童・生徒の反応>

ステップ3 【考えたことを生かす】

教師が明確な指導意図をもって発問を設定し、
児童・生徒の思いや願いを引き出しましょう！



研修 9

明確な意図をもって、話し合いを設定しましょう！

みんなの考えが聞きたくなる！ 話合いの工夫

Q



話し合いを効果的に進めるためには、どのようなことに配慮すればよいでしょうか？

A



話し合いは、児童・生徒が物事を多面的・多角的に考える学習の中心的な学習活動であり、道徳科の学習では重要な役割をもちます。したがって、話し合いが効果的に行われるためには、例えば次のような工夫が大切になります。

- ・座席全体の配置の工夫
 - ・ペアやグループによる話し合いの規模や形態の工夫など
- こうした工夫により、児童・生徒が友達の考えに触発されてねらいとする道徳的価値の理解を一層深め、自分の考えをより広げたり、より明確にしたりすることができます。
- また、教師の適切な指導・助言により、話し合いが円滑に展開され、その効果を一層高めることができます。

ワンポイント
アドバイス！

道徳科での話し合いの目的を踏まえ、ふさわしいテーマ（学習課題）を設定していますか？



道徳科の授業における話し合いは、児童・生徒の道徳的価値の自覚を深め、道徳性を育成するために行うものであり、話し合うこと自体が目的ではありません。

話し合いを通して、児童・生徒が自らの道徳的な成長を実感できるようにすることが重要です。そのためには、次のようなことに配慮して話し合いを行うことが大切です。

1 話し合う目的を明確に示す

児童・生徒が何のために話し合いをするのか、児童・生徒にその目的を明確に示すことが大切です。児童・生徒の学びは、話し合う必要性や切実感をもつことで、より深い学びが得られるからです。

2 聞き手の主体性を促す

「話し合いは、聞き合いである」とも言われます。相手の考えを自分の考えと比較しながら聞くなど、日頃から継続的な指導を行うことが大切です。

3 発問を吟味し、「考える時間」を確保する

話し合いでの発問はよく吟味するとともに、児童・生徒の「考える時間」を十分に確保することが大切です。児童・生徒一人一人が自分の考えをもって話し合いに参加できるよう配慮しましょう。

児童・生徒の話し合いが、「発表」だけの学習活動にならないよう、教師がコーディネーター役を務め、話し合いの調整や方向付けを行っていきましょう。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P83-86
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P82-85

演習シート

—演習—

共通の教材を基に、「発問」のアイデアを考え、予想される児童・生徒の反応を想定しながら、意見交流をしましよう。

ステップ1 【個人で考える】

- (1) これまで、話合いをどのように進めてきましたか。下の枠内を基に、自分の実践を振り返ってみましょう。

ペアでの対話

3～4人組での少人数での話合い

学級全体での話合い

その他（ ）

ステップ2 【協議する】

- (2)教科書の中から、共通の教材を選び、中心となる発問と話合いの形態を考えてみましょう。

ア 発問と予想される反応を考えましょう。

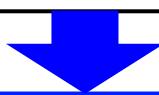
考えられる発問	予想される児童・生徒の反応

イ 「ア」にふさわしい話合いの形態を考えましょう。

ステップ3 【考えたことを生かす】

- (3)他の先生方と意見交換をして、気付いたことや考えたことを記録しておきましょう。

（記録用スペース）



明確な意図をもって話し合せ、道徳的な見方や考え方を
広めたり、深めたりできるようにしましょう！



なぜ書くの？ 書く活動の工夫

Q



本時のねらいを達成するための書く活動は、どのように取り入れるとよいのでしょうか？

A



書く活動を取り入れる最も重要な目的は、児童・生徒が考えを深めることにあります。

次のような視点で考えるとよいでしょう。

- 「ねらいとする道徳的価値について深く考えさせたい場面」や「自己を深く見つめたり、自己の生き方についての考えを深めたりする場面」で取り入れる。
- 書く活動の「時間と回数」の設定は大切です。特に、じっくりと自己内対話ができるよう十分な時間を設定しましょう。書く活動は時間がかかるため、取り入れるのは1単位時間に一度、多くても二度程度として、時間が長すぎたり短すぎたりしないよう配慮しましょう。また、書くことが苦手な児童・生徒にも配慮して書く分量を決めましょう。
- 書くことで、自分の感じ方や考え方を引き出すことができる道徳ノートやワークシートの工夫が大切です。

ワンポイント
アドバイス！

「なぜ書く活動を取り入れるのでしょうか？」
書く活動の指導効果や指導の工夫を確かめましょう！



道徳科での書く活動は、自らが考えを深めたり整理したりする機会として重要な役割をもちます。

- 書く時間を確保することで、児童・生徒は自分自身とじっくりと向き合うことができる。
- 学習の個別化を図り、児童・生徒の感じ方や考え方を捉え、個別指導に生かす重要な機会となる。
- 道徳ノート等を使用することで、児童・生徒が自らの学習を継続的に振り返り、成長を実感することができる。教師にとっても、成長の記録として評価に生かすことができる。など

そこで、これらの書く活動の効果を生かすために、次の4点が大切です。

1 授業に書く活動を取り入れる意図は明確ですか。

書く活動を取り入れる意図を明確にすることで、児童・生徒は主体的に自分の感じ方や考え方を深めることができます。

2 書くことに抵抗感がある児童・生徒に配慮していますか。

児童・生徒に書くことへの抵抗感があれば、せっかくの学習も効果は薄らいでしまいます。例えば、書き込み欄を小さくしたり、登場人物の挿絵に吹き出しを付けたりするなどの工夫を考えましょう。

3 児童・生徒が、自分の思いや願いを表したいと思う活動になっていますか。

自分の思いや願い、反省や希望、感じ方や考え方を「表したい」、「整理したい」、「誰かに伝えたい」という意欲が高まる学習課題を設定しましょう。また、書いた内容の取扱いにも配慮することで書く活動の効果はさらに高まっていきます。

4 書いた内容を教師が適切に見取り、次の学習への意識付けを図っていますか。

児童・生徒がワークシートやノート等に書いた内容を教師が適切に見取り、励ましのコメントなどを記入することで、次の学習への意欲付けを図ることができます。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P83-86
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P82-85
- ・特別の教科 道徳 指導読本Ⅱ 道徳科 指導と評価のガイドブック

(平成30年3月 東京都教職員研修センター) P44-52

演習シート

—演習—

共通の教材を1つ選択し、学習指導要領解説を参考にして書く活動の工夫を考え、協議しましょう。

※事前に対象とする教材と学習指導案を準備してください。

ステップ1 【個人で考える】

(1)これまで、書く活動をどのように行つてきましたか。自分の実践を振り返ってみましょう。

どのようなものを使用してきましたか？

- 自作の道徳ノート
- 教科書などの道徳ノート
- 自作のワークシート
- 教科書会社などのワークシート
- その他（ ）

どのような工夫を取り入れてきましたか？

- 発問 吹き出し
- 教材のイラスト 図や表
- 自己評価欄 写真
- 罫線のある枠 資料
- 罫線のない枠 その他（ ）

ステップ2 【協議する】

(2) ワークシートの構成を考えましょう。

※共通の教材を選んでワークシートの構成を考えてみましょう。

※作成済みの学習指導案を活用するなどして、書く活動を設定する発問を決めておいてください。

① 対象とする学級を予め決めておき、以下に書き込んだうえでワークシートを構想しましょう。

教材名	
主題名	
内容項目	
対象とする学級のプロフィール	

② ワークシートの構想を整理しましょう。

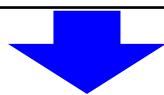
用紙サイズ	
書かせる場面	※書く活動を設定する発問を決めておいてください。
分量（文字数）	
時間（目安5～15分）	
予想される反応	

①②の内容を基に、各自で作成したワークシートについて意見交換をしましょう。

ステップ3 【考えたことを生かす】

(3) 他の先生方と意見交換を通して、今後に生かしたいことを記録しておきましょう。

（意見交換用欄）



書く活動の目的を明確にして、教師のアイデアを生かしながら
児童・生徒の思考を深めましょう！



自分事として考える！ 役割演技等の工夫

Q



児童・生徒が「表現したくなる」体験的な活動にはどのようなものがありますか？

A



道徳科の指導方法は多様です。教師は、ねらい、児童・生徒の実態、教材の特長や学習指導過程等に応じて、創意工夫して指導に生かすことが重要です。

児童・生徒が表現する活動の工夫としては、書いたり、発表したりすることのほかに、動きや言葉を模倣して理解を深める動作化の工夫、特定の役割を与えて演技する役割演技の工夫、音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで自分の考えを表現する工夫などが挙げられます。

これらの指導方法を活用する際は、活動することを目的とするのではなく、活動を通じて、児童・生徒が感じたり、考えたりしたことに基づいて、道徳的価値についての理解を深めていくことが重要です。

教師は、様々な指導方法の活用について、正しい理解を深め、道徳科の特質を生かした授業の工夫に努めていくことが大切です。

ワンポイント！
アドバイス！

役割演技の意義や特質、配慮事項について正しく理解し、役割演技を授業に取り入れてみましょう。



役割演技は、児童・生徒が教材の登場人物などに自己を投影して、即興的に演じる学習活動です。この活動を通して児童・生徒は道徳的価値を自分との関わりで感じ、考え、理解し、また、その後の話合いなどの対話的な学びによって多様な感じ方、考え方出会い、道徳的価値への自覚を深めていきます。

つまり、道徳科における役割演技は、演技することが目的ではなく、道徳的価値の自覚を深めるための手段です。したがって、単なる思い付きで授業に取り入れるのではなく、指導の意図を明確にして計画的に授業に取り入れることが大切です。

【役割演技の基本的な進め方】☆舞台と観客席を設定し、演者と観衆を分けた上で行う場合

- ア ウォーミングアップ：児童・生徒が役割演技を行うための雰囲気づくりを行う段階
- イ 条件設定：役割演技を行わせる場面を示して、登場人物の状況、役割、条件等を理解させる段階
- ウ 役割や条件に即した即興的演技：即興性を重視した演技を実行させる段階※
- エ 演技の中止と話合い：演技を中断して授業者の助言を基に、演者と観衆との話合いを進める段階
- オ 役割交代：演者が役割を交代し、演技を行う段階→相手の立場や考え方に対する認識を深める段階
- カ 演技の終了と話合い：演者と観衆との話合いを行って道徳的諸価値についての理解を深める段階
- ※ 即興性を重視した演技の実施に際しては、観衆へどのような視点で演技を見るか指示する必要がある。また、演者に役割の始まりと終わりを意識させるために、「役割の授与」、「役割の解除」という段階を設けることが望ましい。その際、役割を示すためのお面や表示板等の小道具を活用すると、演者が自分の立場や役割、条件を認識しやすくなるとともに、観衆も演者の状況を認識しながら観ることができるため、効果的である。

役割演技にはこのように場面と役割を与えて行わせる、独演によって語らせる、葛藤場面が生じる2つの自我を想定して演じさせるなど様々な方法があり、一概に全ての段階を行わなければならないということはありません。また、取り入れる方法によっては、段階を変更して進めることも考えられます。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P83-86
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P82-85

演習シート

一演習一

役割演技の意義や特質、配慮事項について理解し、具体的に授業に取り入れる工夫を考えてみましょう。

※事前に対象とする教材を準備してください。

ステップ1 【個人で考える】

(1) 役割演技を構想しましょう。

<どの教材のどの場面で、どのように役割演技を取り入れるかについての検討>

※事前に対象とする場面を決めておいてください。

教材名	
場面	
児童・生徒の役割	
期待する効果や 予想される反応	

確認しよう !!

教材の特質を踏まえ、どの場面で、どの手法で役割演技を取り入れるか考えましょう！



ステップ2 【協議する】

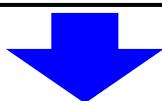
(2) 道徳教育推進教師等が教師役、他の先生方が児童・生徒役となって役割演技をしてみましょう。

<役割分担メモ>

役割	演技する人	留意点

ステップ3 【考えたことを生かす】

(3) 役割演技を体験して気付いたことや考えたことを記録しておきましょう。



役割演技の意義や特質、配慮事項を十分に理解した上で、
適切に道徳科の授業に取り入れていきましょう！



なるほどよく分かる！ 板書の工夫

Q



効果的な板書にするには、どのようなことに配慮すればよいのでしょうか？

A



道徳科の授業では児童・生徒の思考を整理し、ねらいとする道徳的価値についての理解を深めていくことが大切です。そのためには、児童・生徒の思考の流れを視覚的に整理する「板書」は重要な指導方法の一つと言えます。

「板書」には、学習の順序や構造を示したり、内容の補足や補強をしたりするなどの役割と機能があり、児童・生徒にとっては、自己の思考を整理し、深める重要な手掛けりとなるものです。

板書では、児童・生徒に「何を伝えたいのか」、「何に気付かせたいのか」、児童・生徒の「多様な感じ方や考え方をどのように分類・整理するか」など、教師が板書する意図を明確にすることが大切です。

ワンポイント
アドバイス！

児童・生徒の思考を深める板書になっていますか？



板書づくりは、授業づくりと密接につながっており、学習指導過程全体に深く関わっています。だからこそ、板書ひとつで、深い学びのある生き生きとした授業にもなれば、柔軟性に欠けた形式的な授業にもなってしまいます。

教師の指導意図を反映した板書にするための視点として、次のような例が考えられます。

(例)

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| ・中心的に考える場面を強調する板書 | ・感じ方、考え方の違いや多様さを対比・分類する板書 |
| ・学習の過程や構造を示す板書 | ・思考の深まりや心情の変化が見える板書 |
| ・教材文の世界観を表現する板書 | ・児童・生徒が直接書き込むことができる板書 など |

いずれの板書においても、教師が児童・生徒の多様な感じ方、考え方を取り入れ、共につくっていくような創造的な板書となるようにすることが大切です。事前に考えた枠組みに、ただはめ込んでいくだけの板書ではなく、児童・生徒と教師が協働してつくる「学級全体の共通ノート」という意識で板書の工夫をしましょう。

また、ICT機器などの多様な機能を積極的に活用して、児童・生徒が学習を深めることができる効果的な板書を工夫していきましょう。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P78-83
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P76-81
- ・特別の教科 道徳 指導読本Ⅱ 道徳科 指導と評価のガイドブック
(平成30年3月 東京都教職員研修センター) P16

演習シート

—演習—

明確な意図をもって板書づくりをしてみましょう。
※事前に対象とする①教材、②道徳科の学習指導案（予想される児童・生徒の反応や板書例が記載されたもの）を各自で準備してください。

ステップ1【個人で考える】

(1) 教材と学習指導案を準備してください。

<教材名>

<主題名・内容項目>

ステップ2【協議する】<学習指導案を基に、児童・生徒に考えさせたいことを伝え合いましょう。>

(2) 自分が作成した学習指導案を基に、次の3つの視点で伝え合いましょう。 【2~3人】

【教師の指導意図についての視点】

- ねらいとする道徳的価値についての理解・・・ねらいや指導内容についての教師の考え方
- 児童・生徒の実態・・・これまでの学習の経緯やねらいとする価値に関する指導の実態
- 教材の検討・・・教材の特質やそれを生かす具体的な活用のポイント

◆この授業で児童・生徒に最も考えさせたいことは何ですか？



ステップ3【考えたことを生かす】

(3) 板書を構想しましよう。

※実際の黒板やホワイトボード、PCソフトなどを活用する方法もあります。

<他の先生方と確認しましょう！>

- 児童・生徒に考えさせるポイントが明確になっていますか？
- 授業の流れや児童・生徒の思考が分かりやすく整理されていますか？



授業づくりと板書づくりは一体的に行うことが大切です。
一貫した明確な意図に基づいて、板書を工夫しましょう！



研修 13

授業の終末はいつも「先生の話」に決まっていますか？ 多様な終末を工夫しましょう！

学びを振り返り、生き方につなぐ！ 終末の工夫

Q



「教師の説話」をしていますが、「授業の終末」にはどんなことを話せばよいのでしょうか？

A



授業の終末は、本時の学習を振り返り、ねらいとする道徳的価値についての思いや考えを一人一人の生き方につなぐ大切な学習段階です。

教師の説話を児童・生徒に聞かせること自体が目的ではなく、一人一人の生き方につなぐために終末を行うのです。

学習指導要領では以下の活動を例示しています。

- 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる
- 学んだことを更に深く心にとどめる
- これからへの思いや課題について考える

効果的な説話に加え、上のような学びを生み出す、多様な活動を構想することが大切です。

ワンポイント
アドバイス！

「終末」の目的を明確にして、多様な終末の工夫をすることが大切です。



「教師の説話」は、終末の目的を強く意識して内容を構成することが大切です。

(工夫例)

【目的 1】道徳的価値を実現することのよさや難しさを、教師の体験を通して伝えたい
学習したことについて、関連する教師の体験を話す。

【目的 2】学習したことに関して、児童・生徒の視野を広げたい

「規則の尊重」の学習において、電車の中での行動を教材として学習した場合は、終末では公共交通施設や商店等での規則について話すなど、学習内容に関する視野を広げる話をする。

【目的 3】児童・生徒の学びのよさを伝えたい

本時の学習において、よい学びをしていた児童・生徒の発言を紹介し、児童・生徒の学習を認め、励ますとともに、道徳科の学び方を伝える。

【目的 4】道徳的価値を実現することのよさを、児童・生徒の姿や学級の取組から共有したい

日々の教育活動を通して、本時のねらいとする道徳的価値を実現していた児童・生徒の姿や学級での場面を紹介し、よさを共有する。

「教師の説話」以外には、以下のような工夫例もあります。

(工夫例)

- スポーツ選手を題材とした教材で学習した際に、道徳的価値を具現化することのよさを感じさせるために、その選手の活躍の様子を動画で視聴する。
- 児童・生徒の学びを確かめるため、「心に残ったキーワード」や「授業の感想」を書かせる。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P83-86
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P82-85
- ・特別の教科 道徳 指導読本Ⅱ 道徳科 指導と評価のガイドブック
(平成30年3月 東京都教職員研修センター) P16

演習シート

—演習—

多様で効果的な終末の方法を考えましょう。

※事前に対象とする教材と学習指導案を準備してください。

ステップ1 【個人で考える】

(1)これまで、どのように終末の指導をしてきたか、自分の指導に近いものにチェックをしましょう。

- 教師の説話がほとんどである。 教師の説話以外にも、工夫していることが多い。
教師の説話以外にも、工夫しようと努力している。 そもそも、終末の活動があまりできていない。

ステップ2 【協議する】

※事前に教材と学習指導案を準備してください。

<教材名>

<主題名・内容項目>

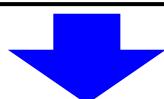
(2)終末を構想しましょう。

- ◇教師の説話の場合は、「何のために」、「どんな話をするか」を書きましょう。
◇教師の説話以外には、どのような活動が考えられるかアイデアを書きましょう。

項目	指導方法（具体的に）	期待する効果
アイデア1		
アイデア2		

ステップ3 【考えたことを生かす】

(3)他の先生方と意見交換をして、気付いたことや考えたことを記録しておきましょう。



「終末」の目的を明確にして、教師のアイデアを生かしながら、本時の学習を児童・生徒の一人一人の生き方につなげましょう！



道徳科における評価

Q



道徳科の評価は、どのようにすればよいのでしょうか？

A



道徳科において養うべき道徳性は、児童・生徒の人格全体に関わるものであり、数値などによって不用意に評価することがあってはなりません。こうした点を踏まえて、それぞれの授業における指導のねらいとの関わりにおいて、児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉えることが大切です。

まず、評価の意義は、①児童・生徒の成長を促すこと、②自らの指導を評価し、改善に努めることにあることを理解してください。

ただし、「道徳性」とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質ですから、道徳性が養われたかどうかは、容易に判断できるものではありません。

そのため、児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子の評価には、①1単位時間の評価と、②一定のまとまりの中での評価など、様々な側面からの評価を工夫することが大切です。

ワンポイント
アドバイス！

児童・生徒のための評価になっていますか？



道徳科の評価のポイントは、いかに児童・生徒の道徳性に係る成長を積極的に見取り、認め、褒め、励ますかにあります。

児童・生徒の道徳性は、一人一人の人格全体に関わるものであるため、個々の内容項目ごとの評価はせず、様々な内容項目の学習全般を通して、学期や学年の一定のまとまりの中で、児童・生徒がどのように学習してきたのか等を記録し、蓄積した資料を基に評価していきます。

一方、児童・生徒は、「先生は私が道徳授業で発言したことをどのように受け止めているのだろう？」「私の考えを認めているのだろうか？」など、教師からの「評価」を期待しています。教師が「以前に比べて、発言の内容が深まってきているね」などの言葉を掛けることが児童・生徒を認め・励ますことになるのです。

【道徳科における評価】

一定のまとまりの中で、児童・生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取ることが求められる。

その際、個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とすることや（他の生徒との比較による評価ではなく【中学校】）児童・生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うことが求められる。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第5章 道徳科における評価 P107-108
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第5章 道徳科における評価 P109-110
- ・特別の教科 道徳 指導読本Ⅱ 道徳科 指導と評価のガイドブック
(平成30年3月 東京都教職員研修センター) P19-27

演習シート

—演習—

道徳科における学習状況を基に、道徳性に係る成長の様子を考えてみましょう。

ステップ1 【個人で考える】

(1) 道徳科の学習活動にはどのようなものがあるか確認しましょう。

<道徳性を養うために行う道徳科の学習活動＝学習状況>

確認しよう !!

- ・道徳的諸価値についての理解を基に
- ・自己を見つめ
- ・物事を（広い視野から【中学校】）多面的・多角的に考え
- ・自己の（人間としての【中学校】）生き方についての考えを深める

学習状況
(1単位時間の授業で)



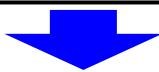
学習を通して

ステップ2 【協議する】

(2) 今まで取り組んできた道徳科の授業から児童・生徒の成長の様子を記述し、他の先生方とを考えを共有しましょう。

<道徳科で育てる資質・能力「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」>

ステップ3 【考えたことを生かす】



(3) 他の先生方と考えを共有して、気付いたことや今後に生かしたいことを書きましょう。

(例) 児童・生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したものから
どのようなよさがどの場面で、どのように見られたのでしょうか。



評価の妥当性・信頼性を高めるとともに授業改善に生かすため、
学校として組織的・計画的に評価を行いましょう！

日々の道徳教育における評価

Q



道徳教育における評価と道徳科の授業における評価はどのように違うのでしょうか？

A



道徳教育における評価は、学校の教育活動全体を通じて行った道徳教育について評価します。
教師が児童・生徒一人一人の人間的な成長を見守り、児童・生徒自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付ける働きをもつようになりますことが大切です。

道徳教育は、道徳科の授業においてのみ行うものではなく、各教科・領域の指導や教科外の活動においても関連付けて指導するものです。したがって、道徳教育における評価は、道徳科における評価と関連付けて考える必要があります（道徳科における評価については、「研修 14」を参照）。

道徳教育の目標は、児童・生徒の道徳性を養うことであり、その評価は、児童・生徒が自分自身の成長を実感し、よりよく生きようとする意欲がもてるようなものでなければなりません。そのためには、道徳授業の中だけでなく、日頃から児童・生徒のよさを認め、励まそうとする教師の姿勢が何よりも大切となります。

ワンポイント
アドバイス！

日頃から児童・生徒一人一人のよさや成長の様子を認め、肯定的な言葉を掛けていますか？



学習における評価について、学習指導要領 第1章 総則には、「児童・生徒のよさや進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること」と示されています。道徳教育についても、この考え方方が基盤となります。

道徳教育の一層の充実が図られるためには、教職員が評価の在り方について共通理解を図り、日頃から児童・生徒一人一人のよさや成長の様子を積極的に認め、励ますことが重要です。

【道徳教育における評価の意義】

教師が児童・生徒一人一人の人間的な成長を見守り、児童・生徒自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付ける働きをもつようになります。そして、それは教師と児童・生徒の温かな人格的な触れ合いに基づいて、共感的に理解されるべきもののです。

把握した児童・生徒の姿をフィードバックする方法としては、日常的な児童・生徒への言葉掛けに加え、通知表の所見欄（道徳科欄とは別途）への記述等が考えられます。また、指導要録においては、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項の欄を活用することが考えられます。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 総則編 第3章 教育課程の実施と学習評価 P76-95
- ・中学校学習指導要領解説 総則編 第3章 教育課程の実施と学習評価 P77-94
- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第5章 道徳科における評価 P107-116
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第5章 道徳科における評価 P109-118
- ・特別の教科 道徳 指導読本Ⅱ 道徳科 指導と評価のガイドブック
(平成30年3月 東京都教職員研修センター) P19-27

演習シート

—演習—

道徳教育の視点から、児童・生徒のよさや成長の様子を捉えてみましょう。

ステップ1 【個人で考える】

(1) 道徳教育全体計画及び別葉を確認し、これまでどのような指導を行ってきたかを書き出してみましょう。

確認しよう!!

- 学校（学年）として重点的に指導している内容項目
- 各教科・領域で行っている道徳教育の内容



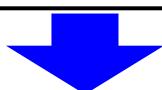
ステップ2 【協議する】

(2) 指導してきたことに照らして、児童・生徒のよさや成長の様子を具体的に書き出し、他の先生方と考えを共有しましょう。

ステップ3 【考えたことを生かす】

(3) 他の先生方と考えを共有して、気付いたことや今後に生かしたいことを書きましょう。

(例) 児童・生徒のよい点や成長の様子はどの場面で、どのように見られたのでしょうか。



日頃から児童・生徒一人一人のよさや成長の様子を把握し、
積極的に認め、励ます評価を行いましょう！



研修 16

児童・生徒はどのような人に育ちましたか？ 学校の道徳教育を振り返りましょう！

道徳教育を振り返ろう！ 次年度計画に向けて

Q



道徳科の授業を頑張ってきたけれど、本当に児童・生徒の心は育っているのでしょうか？

A



道徳科は、思いやりの心や規範意識、生命を尊重し自然を愛する態度といった「道徳性」を育むことを目標とする教科です。しかし、1回の授業で全ての児童・生徒に思いやりの心を育んだり、生命を尊重する態度を身に付けたりすることはできません。また、地域や学校、児童・生徒の発達の段階等によっては実態や課題も異なります。

児童・生徒の道徳性を着実に育むためには、学校として児童・生徒をどのような人に育てるかという目標を明確にし、その実現のための指導の計画や工夫等について常に見直し、改善を重ねて向上を図っていくことが必要です。

これまで取り組んできた道徳教育について、児童・生徒の実態や学校の教育目標、教師や保護者の願いなどを基に振り返り、成果と課題を明らかにして、次年度の計画に反映することが重要です。

ワンポイント
アドバイス！

「目指す児童・生徒の姿」を基に振り返り、着実に実現するための手立てを工夫することが大切です。



例えば、「思いやりの心をもった人」といっても、イメージが漠然としていて「どのような人に育てるか」を明確に共有することができません。また、「思いやり」には、他者の気持ちを尊重すること、他者のために行動すること、自他の共生を図っていくことなど、様々な要素が含まれています。「目指す児童・生徒の姿」を明確にして重点目標を設定し、その実現に向けた手立てを具体的に計画することが必要です。

(例) 【重点目標】「他者の意見・考え・気持ちを尊重し、進んで他者のために行動できる人」

【関連する内容項目】「善悪の判断、自主、自律、自由と責任」、「親切、思いやり、感謝」、

「友情、信頼」、「相互理解、寛容」、「公正、公平、社会正義」、「勤労、社会参画、公共の精神」

【指導の在り方】・「関連する内容項目」を柱として道徳科の年間指導計画を作成する。

- ・各教科等で「重点目標」に関連する指導内容を抽出して別葉を作成する。
- ・学校だよりやホームページ、道徳授業地区公開講座などを通じて、「重点目標」や「指導の在り方」について、児童・生徒や保護者、地域の方に周知する。

学校における道徳教育は、道徳科を要として教育活動全体を通じて取り組むものです。全ての教育活動において、目標の達成を目指した取組を積み重ねていくことで児童・生徒の道徳性を着実に育んでいきましょう。

参考

- ・小学校学習指導要領 第1章 総則 第6 道徳教育に関する配慮事項 P26-27
- ・中学校学習指導要領 第1章 総則 第6 道徳教育に関する配慮事項 P28
- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P72-77
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P70-75
- ・「Do-NAVI vol.1」P7-P8、P12 ・「Do-NAVI vol.2」P5、P11-P12

演習シート

—演習—

「児童・生徒の姿」を共有し、その実現に向けた取組を振り返ってみましょう。

ステップ1 【個人で考える】

(1) 学校の道徳教育の重点目標を基に、本校が目指す児童・生徒の姿を実現できたか振り返りましょう。

確認しよう!!

学校の教育目標、学校経営方針、児童・生徒の実態、教師の願い、家庭・地域の願い

ステップ2 【協議する】

(2) 重点を置いて指導する内容項目を決めましょう。

確認しよう!!

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 小学校 P26-27 中学校 P24-25

ステップ3 【考えたことを生かす】

(3) 次年度の道徳教育でどのような工夫ができるか考えましょう。

●道徳科での工夫

●道徳科以外の各教科での工夫

●特別活動・総合的な学習の時間での工夫

●家庭や地域との連携の工夫



次年度の道徳教育の全体計画、全体計画の別葉、
道徳科の年間指導計画等の改善につなげましょう！



研修 17

児童・生徒の豊かな心を育てるために、学校・家庭・地域が一体となって取り組みましょう！

協力し合える関係づくりを！ 家庭・地域との連携

Q



家庭・地域と共に児童・生徒の心を育てるには、学校はどのようにしていけばよいでしょうか？

A



学校・家庭・地域が一体となって児童・生徒の豊かな心を育てるには、学校が連携の中心となつて道徳教育に対する理解を深めていく必要があります。

道徳科は学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要です。したがって、家庭や地域に向けて道徳科の授業を公開することは学校の道徳教育への理解と協力を得るためのきわめて大切な機会と言えます。

道徳科の授業公開の方法として、通常の授業参観の形で行う方法、保護者会等の機会に合わせて行う方法、道徳授業地区公開講座で行う方法等が考えられます。

言うまでもありませんが、児童・生徒の豊かな道徳性は道徳科の授業だけで育つものではなく、また、学校の教育活動のみで育成できるものではありません。学校・家庭・地域にはそれぞれが果たすべき重要な役割があり、その役割を互いが誠実に果たし合い、補い合うところに連携は成り立ちます。児童・生徒の身近にいる大人が互いにその役割を自覚するとともに、相互理解を深めることができます。のために、学校を積極的に公開し、連携を密に図っていきましょう。

ワンポイント
アドバイス！

道徳科の授業で、家庭・地域の積極的な参加や協力を得るにはどのような工夫があるかを考えましょう。



道徳科の授業公開は家庭や地域社会との連携を深める重要な機会です。家庭や地域のできごとを題材として取り上げた学習、家庭や地域で話したり、取材したりしたことを生かした学習、保護者や地域の方々の参加を得て行う学習など、様々な工夫が考えられ、保護者や地域の方々が参観しやすく、参加したくなるような工夫が望されます。

- 1 授業実施への保護者の協力を得る
→児童・生徒と同じ立場での参加、アンケートや手紙への協力、事後指導への協力 等
- 2 授業実施への地域の人々や外部人材の協力を得る
→特技や専門知識を生かした話題提供、実体験に基づく講話やメッセージ 等
- 3 地域教材の開発や活用への協力を得る
→教材提示への協力、話し合いを深めるための解説や実演、質問への回答 等

道徳科の指導は学校の教育課程の一環として学校が責任をもって行うものです。しかし、学校での教育と家庭での教育が一体となったときに、児童・生徒の道徳性はより一層豊かに育ちます。そのためにも、保護者や地域の方々との良好な関係を基盤に、学校から積極的な情報発信をすることが期待されています。

参考

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P72-77
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い P70-75

演習シート

—演習—

児童・生徒が道徳性を發揮する場面にはどのようなものがあるのか、また、その道徳的実践をどのように連携して見取り、価値付けていくのかを考えていきましょう。

ステップ1 【個人で考える】

(1) 児童・生徒が道徳性を發揮する場面を考えてみましょう。

<児童・生徒が道徳性を發揮する場面>
(家庭で)

<児童・生徒が道徳性を發揮する場面>
(地域で)

ステップ2 【協議する】

(2) 家庭・地域と連携した見取り・価値付ける方法を考えてみましょう。

<家庭・地域と連携した見取り・価値付ける方法> (方針の発信方法・情報の受信方法等)

ステップ3 【考えたことを生かす】

(3) (1)で出たアイデアを実現するために、学校としてできることを考えてみましょう。

<(1)で出たアイデアを実現するために、学校としてできること>

「みんなの子供をみんなで育てる」という意識をもち、
学校・家庭・地域が連携して児童・生徒を育てましょう！



道徳科 よい授業をつくりたい 先生方への期待

道徳科でよい授業とは、どのような授業でしょうか。挙手の数、発言の数が多い活発な授業でしょうか。役割演技に真剣に取り組む授業でしょうか。様々な捉え方があると思いますが、教師と子供と教材が三位一体となって響き合っている授業はよい授業です。子供の道徳性は子供が道徳の学習に興味・関心をもち、夢中になって学習に取り組む中で育まれるものだからです。そのような授業をつくるのは、各学校の先生方です。本書を活用して、先生方お一人お一人の授業改善を期待致します。

本書の作成に当たって、令和2年度東京都教育委員会研究推進団体である東京都小学校道徳教育研究会、東京都中学校道徳教育研究会に御協力をいただきました。また、本書の企画・編集を担当した東京都教職員研修センター道徳科指導資料作成委員会では、日本道徳科教育学会理事 後藤 忠先生、東京女子体育大学教授 小林 福太郎先生に御助言を賜りました。記して感謝申し上げます。

なお、以下の者が本書の作成に携わりました。

東京都教職員研修センター所長 宇田 剛
東京都教職員研修センター研修部長 石田 周

東京都教職員研修センター		東京都教育庁指導部	
教育開発課長	土屋 秀人	義務教育指導課長	中嶋 富美代
教育経営課統括指導主事	関 祐一	主任指導主事(道徳教育・外国語教育担当)	
教育経営課統括指導主事	高木 紘二郎		重山 直毅
専門教育向上課統括指導主事	海馬澤 一人	主任指導主事(安全教育担当)	桐井 裕美
教育開発課統括指導主事	長友 慎吾	義務教育指導課統括指導主事	吉川 泰弘
教育開発課指導主事	高橋 龍	指導企画課指導主事	吉本 一也
教育開発課指導主事	東小川 智史	義務教育指導課指導主事	俵 宗次郎
教育開発課指導主事	塚原 雄太	義務教育指導課指導主事	播磨 靖文
教育経営課教授	峯川 一義		
授業力向上課教授	朝倉 喻美子	台東区教育委員会統括指導主事	村上 桂一郎
授業力向上課教授	太田 圭子	町田市教育委員会統括指導主事	宇野 賢悟
教育開発課教授	木村 良平	羽村市教育委員会統括指導主事	三品 孝之
教育開発課教授	近谷 幹男	大田区教育委員会指導主事	中治 謙一
教育開発課教授	土屋 信行	渋谷区教育委員会指導主事	早川 大介
教育開発課教授	野口 知義	北区教育委員会指導主事	根本 淳子
教育開発課研究支援員	天谷 真代	昭島市教育委員会指導主事	荒武 宗一郎
		国分寺市教育委員会指導主事	野村 宏行
		国立市教育委員会指導主事	武内 陽子

特別の教科 道徳 指導読本Ⅲ

道徳科 校内研修ノート ～よい授業をつくりたい～

東京都教職員研修センター印刷登録 令和2年度 第14号

令和3年3月17日発行

編 集 東京都教職員研修センター教科等部会道徳部会

発 行 東京都教職員研修センター研修部教育開発課

所在地 〒113-0033 東京都文京区本郷一丁目3番3号

電 話 03 (5802) 0306

印刷所 株式会社 和幸印刷

所在地 〒162-0812 東京都新宿区西五軒町7丁目10番

電 話 03 (3235) 1031